

曾我量深略伝

西暦	和暦	年齢	事蹟・体験	備考
1888	M21	14	【幼少年・就学時代】(明治8年～36年) 『成唯識論』を子供の頃から親しむ。	味方村円徳寺(富岡姓)に生まれる
1901	M34	27	清沢満之の精神主義を批判 10月13日 清沢満之学長就任講演 「如来ありての信か、信ありての如来か」	現、見附市浄恩寺(曾我姓)に入寺する 1月『精神界』発刊(浩々洞) 10月 真宗大学東京移転開校
1902	M35	28	2月 京浜仏教徒大懇話会春季会(上野精養軒)満之の言葉 「私の精神主義は罪惡と無能とを懺悔、如来の御前にひれふすだけである」(「自己を弁護せざる人」より) 10月 満之の大学辞任と共に自らも辞職	2月 真宗大学の教壇に立ち「因明」担当(満之による大抜擢)
1903	M36	29	3月18日 浩々洞に入洞 【真宗大学時代】(明治37年～44年)	11月 満之、大浜西方寺へ帰る 満之「絶対他力の大道」「我が信念」 明治36年6月6日 清沢満之示寂
1904	M37	30	1～12月「日蓮論」連載 9月真宗大学教授就任「唯識学」を講義	※『観経』に関する論稿を発表 ◎凡夫釈尊という観経観 ※内面に生きる「清沢満之」を発表 ※法蔵菩薩感得の前提となる論稿「精神界」「他力は胸より湧く」「我等が久遠の宗教」
1905	M38	31	「解深密教論」「撰大乘論」 「観無量寿経の対告衆、韋提希論」「凡人の右胸より誕生したる如来の宗教」「大闇黒の仏心を観よ」他	
1909	M42	35	6月満之七回忌「自己を弁護せざる人」(M35.2月を回顧)	
1911	M44	37	7月大学辞任 9月真宗大学京都に移転 10月帰郷 【北越時代】(明治45年～大正5年)	「地上の救主」(T2.6/17午後10時終稿) ※法蔵菩薩降誕の意義を感得 ※【南無の大地】に立つ ◎親鸞の配所の御内観を偲ぶ ※満之、天親に法蔵菩薩を見出す ※還相回向に関する論稿を発表する
1913	T2	39	「如来は我なり」「如来我となりて我を救ひ給ふ」 「如来我となるとは法蔵菩薩降誕のことなり」曾我の見道	
1914	T3	40	「田舎寺の研究生活」 「出山の釈尊を念じて」(現に生き背後に活躍せる釈尊)	
1915	T4	41	「念仏は原始人の叫びなり」「わが祖親鸞聖人」 満之十三回忌「永久の往生人」「闇へ闇へ」 【東洋大学時代】(大正5年～13年)	◇T5実母命終 ◇T7弟昇道を養子に迎える ◇T8義母命終 ◇T9実父命終 ◎実父への手紙 ◇T11義父命終 ※内観の原動力か ※根本阿頼耶識と現象意識との明瞭なる境界線を感じ得
1916	T5	42	9月 東洋大学教授就任 10月 浩々洞に再び入洞『精神界』編集にあたる 「祖聖を憶いつつ」「正覚より本願へ」「未来の世界」「自己の還相回向と聖教」「大自然の胸に」「体験の教証」等	
1922	T11	48	「如来、我を救うや」 如来が如来であらんためには衆生を救わねばならぬ、しかし彼が衆生を救わんがためには永久に如来となることが出来ぬ	
1924	T13	50	3月 東洋大学辞任、帰郷 【大谷大学時代】(大正14年～昭和5年)	◇T14 2月妻 敬 命終 11月 再婚する 12/25までT15
1925	T14	51	4月 真宗大谷大学教授就任	
1926	T15	52	3月「如来の表現する自証の道程」・秋「如来表現の範疇としての三心観」講ず	
1927	S2	53	4、5月「大無量寿経の宗義」主な執筆活動は終わる 5月「如来表現の範疇としての三心観」発刊	※「阿頼耶識は法蔵菩薩なり」 S3長男信雄生まれる
1930	S5	56	11月～「宗教的信が展開する願の世界」後S8「本願の仏地」発刊 3月 大学辞任(宗義違反)、各地巡講 9月興法学園	S11◎「宿業は本能なり」を感じ得 「「歎異抄」ならばいつでもはなすことができます」選集6巻月報より S11「救済と自証」 S13「地上の救主」「伝承と己証」 S16「内観の法蔵」
1935	S10	61	【在野時代】(昭和5年～16年) 12月「親鸞の仏教史観」発刊←還暦記念講演(5月) 「曾我量深論集」全4巻 が相継いで発刊される	
1941	S16	67	【再び大谷大学時代】(昭和16～46年)	
1942	S17	68	11月 大谷大学教授就任	S23安居「大無量寿経聴記」 関連S28「現在に救われよ」 S35安居「信巻聴記」
1943	S18	69	7月 安居「歎異抄聴記」※宿業と本願の関係を論ずる	
1945	S20	71	「真宗教学の中心問題」後S21発刊 ※救済と自証が課題であった	
1949	S24	75	8月15日 終戦	京大総長平澤興氏(同郷人)と共に S43安居「正信念仏偈聴記」 10月「異なるを歎く」
1952	S27	78	9月 大学辞任(GHQの公職追放)	
1955	S30	81	6月 満之師五十回忌7月◎根室にて「分水嶺の本願」感得 11月 渡米	
1961	S36	87	親鸞聖人七百回御遠忌記念講演「信に死し願に生きよ」 8月 大谷大学学長就任	6月20日還浄 無極院釋量深
1965	S40	91	10月 頌寿記念講演「如来ありての信か、信ありての如来か」 →「我如来を信ずるが故に如来まします也」満之への奉答	
1967	S42	93	8月 学長退任	
1970	S45	96	10月中道誌「宿縁と宿善」文の差別言辞が問題化し侍董寮々頭罷免	1894～95 日清戦争
1971	S46	97	2月 生涯のテーマ「救済と自証」は満之から示唆を得た。	